



国際認証の取得を目指して

セーフコミュニティ 研修会の報告

秩父市では、セーフコミュニティの国際認証取得に向けた取り組みを進めています。11月に行った研修会では、国内でセーフコミュニティ活動の推進に携わられているお二人を招いて講演していただきました。その概要についてご紹介します。

「安全なまちづくり
『セーフコミュニティ活動』」

一般社団法人
日本セーフコミュニティ推進機構
代表理事 白石陽子氏

安全なまちをめざして

健やかな生活を阻害する要因には、傷害あるいは病気などがあります。セーフコミュニティの活動では、体や心への傷（傷害）を対象に、不慮の要因（交通事故、災害など）・意図的な要因（犯罪、自殺など）につ



国内唯一のセーフコミュニティ認証支援団体代表の白石氏

て、その原因や状況を分析し、予防します。セーフコミュニティは、100%安全なまちになることではなく、7つの指標にもとづいて「事故や犯罪を着実に減らすために取り組んでいるまち」のことなのです。

なぜ認証を目指す？

認証を取得する上では、国際基準で定められた指標に基づいて、地域ぐるみで継続して取り組んでいくこととなります。そのポイントは次の3点です。
①分野・組織を超えた横の連携と協働
②全市民の一生の安全を対象
③効率的・効果的な取り組みの評価・測定

特に、データの分析により、ハイリスク集団（安全・安心に対して危険度の高い集団）や環境を特定し、地域の課題に合った対策を重点的に検討していきます。

「地域が創る
セーフコミュニティ」

京都府亀岡市篠町
前自治会長 井内邦典氏

自治会の役割とは？

自治会とは、どのような活動をすべきなのか。篠町では、「自主的な活動をやっていこう」という意思をもって、「町づくりの基本原則」を作りました。行政の下請けだけでなく、そこに加えて、自分たちで地域社会を築いていく方針を決定しました。

地域活動の広がり

「ふれあい」をキーワードに、地域の資源や人的資産を掘り起こし、地域貢献をしていく活動を企画しました。例えば、清掃作業を行ったり、自主防災訓練を行ったりして、地域に誇りを



国内初の認証都市・亀岡市のモデル地区である篠町の井内氏

持ち、交流を深めていく活動を行っています。

一つひとつの活動は、皆さんの地域で行っているものと変わらないと思います。何か違いがあるとすれば、自主的にワークショップ（参加型の意見交換会）を開催して必要な事業を自ら企画し、各種のデータを反映させた対策を検討しているということです。

自ら創るセーフコミュニティ

現在の篠町は、高齢者を守るふれあいマップの作成、子どもを守る校門ガード、防犯一万人パトロールなど、非常に多くの活動を自分たちの意思で行う自治会となりました。セーフコミュニティの取り組みにより、地域の絆が深まり、継続した活動が徐々に拡大し、地域が元気になっていくことを実感しています。現在は、再認証の取得に向けて、さらに充実した活動を推進しているところです。

今後も、安心・安全なまちづくりを進めていくため、市内や他の自治体の取り組み事例等について紹介していきたいと考えています。皆さんの事例もぜひお寄せください。

地域政策課セーフコミュニティ担当 ☎22-12823